

導入事例 Case study

よだ内科・循環器内科クリニック様

J-MAC SYSTEM



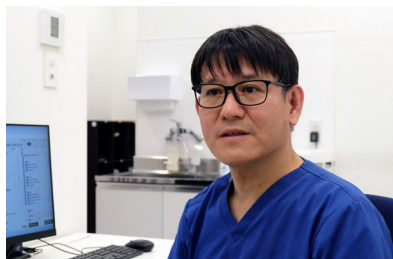
専門的な循環器領域の疾患から生活習慣病まで幅広い疾患に対応、地域住民の健康を守り、より身近な医療を提供するクリニックを目指す。

千葉県柏市にある「よだ内科・循環器内科クリニック」。地域の皆さまにより身近な医療を提供できる場所を作りたいという思いから2024年（令和6年）5月に開院。心臓血管外科の専門医として、循環器疾患に関する術前・術後のフォローアップから、一般内科および健康診断まで幅広く対応し、患者さんとそのご家族とのコミュニケーションを大切にしたい診療を心がけている。開院にあたり、なぜ「Climis」を導入されたのか、依田 真隆 院長にお話を伺いました。

より幅広い患者さんを対象に、地域医療に貢献したい

-- 先生のご経歴および開院までの経緯についてお聞かせください。

1998年（平成10年）に北九州市にある産業医科大学医学部を卒業後、心臓手術術例が一番が多かった東京女子医科大学へ見学に行った際に、ものすごく活気があふれる医局に「私もここで切磋琢磨したい!」と感銘を受け、東京女子医



依田真隆 院長

科大学の心臓血管外科学に入学、大学とその関連病院で勤務しました。その後、さらなる研鑽を目的にドイツへ渡り5年ほど修練を積み、帰国後は幾つかの病院で心臓血管外科の医師として、患者さんを診てきました。2019年（令和元年）からは、柏厚生総合病院の心臓外科の設立に伴い、超急性期という角度から地域医療に向き合ってきました。開院のきっかけは私の親が病気をしたこともありますが、循環器疾患はもとより、より幅広い患者さんを対象に地域医療に貢献したいという思いからです。心臓血管外科の医師としての経験や専門性を活かし、術前・術後の診療や不整脈や狭心症などの循環器領域の診療から、高血圧症や脂質異常症などの生活習慣病を含めた一般内科まで、幅広い疾患を対象とした内科・循環器科のクリニックを開院することにしました。

-- ドイツでご勤務されていたということですが、何かきっかけや動機があったのですか？

元々、より心臓外科を学べる環境を探していたのですが、たまたまドイツの病院を見学する機会に恵まれました。院長との昼食の際に「ここで働かせてください!」と直談判したところ、留学ではなく就職という形で採用

になったのがきっかけです。当時所属していた医局も全て辞めてドイツへ渡ったため、5年ほど勤務を続けていましたが、同じ病院で勤務されていた教授から「一緒に日本に戻らないか?」とお誘いを受け、日本へ帰国しました。



クリニック受付

一つひとつの病気を見極める姿勢を大切にしています

-- クリニックの特徴についてお聞かせください。

当院には、大規模な病院のようにCTやMRIなどの大型の設備はありません。しかし、心臓外科を専門としていましたので、患者さんの術後のフォローはもちろん、不整脈や弁膜症などの循環器領域の専門的な疾患に対応できるよう体制を整えています。心電図やホルター心電図、エコーなどは最新の機器を備えています。また一般的に罹患率の高い、睡眠時無呼吸症候群・糖尿病・下肢静脈瘤などに関しても、適切な検査と治療を行なっています。



心電図検査装置

心臓外科医として働いていた当時は、診断が確定し検査データも揃った状態から患者さんと向き合い、手術を行うことが主な役割でした。しかしクリニックの開業後は、データが何もない状態から診断をすることになります。そのため問診や聴診といった基本的な診察を重視し、一つひとつの病気を見極める姿勢を大切にしています。単に採血や検査データに頼るのではなく、患者さんの表情や歩き方にも注目し、患者さんはもちろん、ご家族とのコミュニケーションを大切にしながら診療を行うことを心がけています。



超音波撮影装置

説明でしっかりとしたシステムだとわかり導入を決めた

-- なぜClimisに決めたのですか？

開業コンサルティングの会社からはじめに紹介されたPACSは、X線装置を扱っている大手のメーカーでした。PACSは胸部画像を確認できればよいと思っていましたが、導入金額が高額だったため、自身で他のメーカーのPACSも探しはじめ、インターネットでクラウド型のPACSがあることを知りました。最初は大手のメーカーと比べると、金額にかなりの差があり心配していましたが、担当者の説明を聞くうちにしっかりとしたシステムであることがわかり、導入に至りました。

一番の決め手は、導入コストの安さ

-- 選定時のポイント、決め手についてお聞かせください。

やはり一番の決め手は、導入コストの安さでした。サーバー型のPACSは数年毎に高額な更新費用が発生します。また、他のメーカーのクラウド型PACSも検討しましたが、保管容量に上限があり、超過分に対して従量課金が発生するシステムもあります。Climisは保管容量に上限もなく、定額で長期的なコストを低く抑えられることが選定の大きなポイントでした。

電子カルテとの連携も問題なく、不便を感じたことはない

-- 実際にご使用された感想をお聞かせください。

院内で使用している電子カルテシステムとの連携も問題なく、不便を感じたことはありません。サーバー型に比べると若干のタイムラグを感じることもありますが、その時間を利用して患者さんと会話もできるのであまり不便とは



Climisでの画像参照

感じていません。また、今はまだ使用していませんが、オンラインで近隣の施設と画像データを共有する機能も備わっているので、うまく使用することで地域連携も円滑に行うことができると考えています。

-- クラウド型PACSについて、導入前に感じていた課題や懸念点があればお聞かせください。

クラウド型のPACSを導入するにあたり、インターネットの障害に対する不安が全くなかったわけではありません。しかし現在は大都市はもちろん、小さな町でもインフラが整備されつつあり、インターネットに接続できない環境はごく限られています。またクリニックでは大きな病院のように、同時に複数の端末からアクセスすることはありませんので、速度的な遅延も無いと思っています。使用感についても特に不満はありませんし、セキュリティに関してはVPNを使用していますので、信用してお任せしています。

月額利用料に保守費用も含まれており、安価で利用できる

-- 保守サポートについてはいかがでしょうか？

他社の製品では、個々のサービス料金はそれほど高くなくても、様々なオプションが追加されることで、最終的に固定費が想像以上に膨らんでしまうことがよくあります。Climisは月額利用料に保守費用も含まれており、安価で利用することができます。一度、画像が見られなくなったときにカスタマーサポートへ電話をしましたが、すぐに繋がりが解決できましたし、普段のことで困ったことはないです。

-- 今後、Climisに期待すること(機能等)があればお聞かせください。

例えば、肺癌の見落としで訴訟問題になることがあります。昨今、医療の分野でもAIを活用した製品が出てきています。ぜひClimisでも、読影のサポートをしてくれるAIシステムを搭載して欲しいですね。

大手メーカーのAIシステムをオプションでもいいですが、安価で提供してもらえることを期待したいと思います。

-- 最後に導入をご検討中の方へ、Climisを薦めるポイントがあればお願いします。

月額利用料に保守費用も含まれていて低価格で使用できること、クラウド型なのでサーバーを置く場所も取らないのでクリニックでは運用しやすいと思います。定期的にアップデートもされるということなので期待したいと思います。



取材協力:よだ内科・循環器科クリニック
(2024年11月 取材)